

品質・収量の向上は健苗の適期移植から 浸種開始が早すぎないように注意

- 上越東地域におけるコシヒカリの1等米比率は81.8%で、特に安塚区(75.5%)、牧区(74.0%)で平年より低く、上越地域全体(91.6%)の数値を大きく下回りました。また、収量も平年に比べやや少なくなりました。
- これは8月の日照不足と早期倒伏による登熟不良、甚倒伏による収穫作業の遅れが大きな要因です。
- 倒伏要因の一つとして、「老化苗を移植したことによる初期生育不良」が考えられます。本年は苗の老化を防止し、苗質を向上させ倒伏に強い太く充実した茎を育て収量・品質を向上させましょう。
- まずは浸種時期を見直し、健苗(規格苗)の適期移植を徹底しましょう。

育苗のポイント

- ・健苗(規格苗)の目安は、稚苗2.0葉、中苗3.5葉です。
- ・田植えだけを遅らせても、は種(浸種)が早いと出穂はそれほど遅くなりません。
- ・また、葉齢の進んだ老化苗は、初期生育不良の要因となります。浸種が早くなりすぎないように注意し、移植日から逆算して作業計画を立てましょう。

1 育苗作業計画 移植日から逆算し、浸種日等を設定。長い育苗期間は老化苗の原因

- 平坦地では「つきあかり」は5月上旬、「五百万石」・「こしいぶき」などは5月10日頃までに移植しましょう。中山間地の早生品種の移植は5月中旬をめやすに可能な範囲で早く植えられるように計画しましょう。
- 「コシヒカリ」は最も高温となる時期の出穂を避けるため、5月10日以降に移植できるように浸種計画を立てましょう。
- 浸種が早くなりすぎないように注意し、移植日から逆算して作業計画を立てましょう。
- 露地プール育苗は低温条件で活着が劣ることや、4月の低水温でマット形成が不良となることがあるため、4月20日以降のは種とするか、保温効果の高い被覆資材を使用する等の対策を行きましょう。

表1 育苗スケジュールの例(5月10日移植、露地プールは5月15日移植の場合)

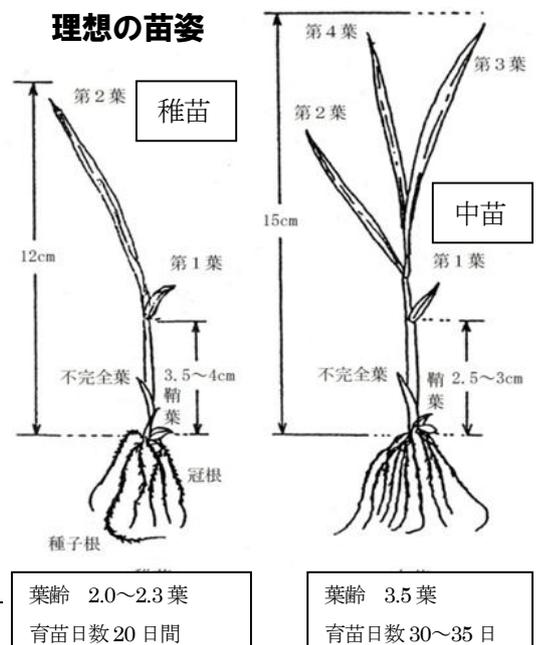
育苗様式		育苗日数	浸種		催芽	は種	田植え
稚	ハウス	20日	4/8	(10日間)	→ 4/18	→ 4/20	→ 5/10
苗	露地プール	25日	4/8	(10日間)	→ 4/18	→ 4/20	→ 5/15
中	苗	30~35日	3/28	(10日間)	→ 4/8	→ 4/10	→ 5/10

2 種子消毒 温湯のみでは防除効果は不十分です。

- 近年、温湯消毒の普及に伴い、褐条病(葉鞘がすじ状に変色し枯れる)、ばか苗病(苗が異常に徒長)などの発生が増えています。
- 温湯消毒の単独処理では、褐条病やばか苗病防除の効果が十分でないため、微生物農薬との体系防除を徹底しましょう。
- 細菌性病害(褐条病やもみ枯細菌病、苗立枯性細菌病等)に対しては種子消毒だけでは十分な効果が得られないことが多いため、体系防除を実施しましょう。

3 浸種 初日の水温は10℃以下にしない。

- 通常、浸種は、水温10℃~15℃で積算水温100℃をめやすに行いますが、休眠がやや深いと推定される「コシヒカリBL」

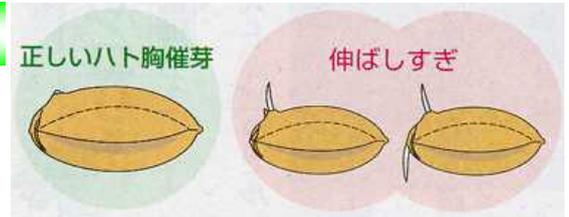


や、休眠が深いことがある「つきあかり」については、水温12℃で積算水温120℃をめやすとし、発芽揃いを良くしましょう。

- 特に、浸種初日の水温が10℃より低い場合は発芽不良を起こす場合があるので注意しましょう。
- 吸水状況や芽の動きを注意深く確認し、芽の動きが早く伸び過ぎが懸念される場合には早めに浸種を終了しましょう。
- 浸種は必ず水道水か井戸水を用い、水量は種子1kgに対して約3.5リットル確保しましょう。
- 薬剤の消毒効果を高めるため浸種の前半の4日間は水を入れ替えないようにしましょう。
- 温湯消毒の場合は浸種開始から1～2日で水の入れ替えを行いましょ。

4 催芽 ハト胸状態で終了。芽を伸ばしすぎない。

- 30℃で1～2日をめやすに80%以上がハト胸になった状態で終了です。
- 30℃を超えると、細菌性病害が出やすくなります。



5 は種 薄まきで、健苗を育成しましょう。

○は種量は下表を参考にしてください。厚まきは軟弱徒長苗や育苗障害の発生に、また極端な薄まきはマット形成不良の原因となります。

品 種	育苗様式	1箱当たりは種量	
		乾粃	催芽粃
コシヒカリ こしいぶき	稚苗	130～140g	160g～175g
	中苗	80～100g	100g～120g
つきあかり みずほの輝き	稚苗	145～155g	175g～190g
	中苗	90～110g	110g～135g



6 育苗管理 緑化期はヤケ苗に注意。こまめに温度を確認しましょう。

(1) 出芽期

- 稚苗で加温出芽の場合、30℃、2～3日で出芽長が0.5～1.0cmになれば出芽は完了です。中苗の場合は30℃、1～2日で出芽長が0.5cm未満がめやすです。
- 出芽長が長すぎるとその後も徒長しやすく病害にも弱くなるため注意が必要です。

(2) 緑化期

- 出芽直後の苗は、急激な気温の変化や強い光に弱く、緑化には弱い光が適しています。被覆資材で遮光するとともに、日中は20～25℃になるように管理します。10℃以下になると伸長が止まるので、低温時は二重被覆するなど保温管理に努めましょう。
- ハウス内が25℃以上の場合や好天で気温が上がりそうな時は、換気を行いヤケ苗の発生を防止しましょう。
- 第1葉の葉鞘の長さが稚苗で3.5～4.0cm、中苗で2.5～3.0cmになったら被覆資材をはがし、緑化を終了します。
- プール育苗では、緑化が終了し被覆資材をはがす1～1.2葉期頃になったら湛水を開始します。

(3) 硬化期

- 除覆後は、日中はハウスを開放し、苗を徐々に外気にならしていきます。
- 日中は15～20℃をめやすに管理します。晴天時にはハウス内がすぐに高温になるため早めに換気を行います。
- かん水は、硬化前半は1日1回程度、後半は乾燥程度を見ながら1日2回、午後2時頃までに行います。移植1週間前からは、夜間もハウスを開放しますが、ムレ苗を防ぐため8℃以下にならないよう管理しましょう。

お問い合わせ：上越東農林事務所 普及課 作物担当
TEL：025-592-3848 FAX：025-592-3591